

## 1 令和4年度第2回定例会

日 時： 令和4年7月28日（木）午後2時30分から午後4時00分

場 所： 本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）委員6名  
（事務局）図書館長、中央図書館整備担当課長、  
企画運営係長、総務担当主査

会長 本日は副会長が欠席である。委員定数の半数以上の委員が出席しているので多摩市図書館協議会規則第4条により令和4年度多摩市図書館協議会第2回定例会は有効に成立する。

事務局から配布資料の確認をお願いする。

配布資料確認。

会長 本日の議題に入る。議題1 令和3年度図書館事業評価について、事務局から説明をお願いする。

事務局 資料2-1である。本日、当日配布した資料2-5は、委員のみなさんが外部評価を書き込める様式として配付したものであり、内容は同じである。基本目標の中からそれぞれ対象となる項目を一つずつ選んで評価をいただくことになっており、本日は基本目標1と2の2項目について、評価をしていただきたい。基本目標1 だれもが使える図書館の具体的な取り組み状況をまとめた。前回、実績として別の一覧表で出しているが、もう少し詳細にまとめたものである。4ページは実施結果を受けての図書館の自己評価をまとめたものである。2ページは、令和3年度年齢別登録者数・貸出者数ということで評価の参考にしていただければと思う。これをみると10歳代については、図書館訪問を小学校2年生でやっており、その際に利用者カードを登録し、本を借りてもらうということをやっており、登録率は高い。ただ、過去1年間の貸出実数は平均の64.1%を下回る49.1%であり、登録はしていても図書館が利用されていないような状況である。20代については、人口に対する登録率が他の年代にくらべ顕著に低いわけではないが28.2%、過去1年間での貸出実績がある登録者数の割合も48.3%と年代別では低く、若年世代の利用が少ない状況である。こうした数値を見ながら、どこをポイントに事業を進めていったらいいのかというところがあるかと思うので参考にして欲しい。3ページは令和3年度の電

子書籍のベストリーダーということがよく読まれている本の表である。電子書籍の中でみると割と若い人向けの本に動きがあることがわかる。ただ電子書籍については、年代別の利用状況が統計として取れないのでこういった表を参考にさせていただければと思う。4 ページが図書館の自己評価で、図書館として取り組んだことは、若い世代も含めて、広く利用促進をしてもらうということで、多摩市公式 SNS の発信を全館で令和 3 年度は取り組んだ。また、グリナード永山でのパネル展示や、学校の教職員向けの図書館の利用案内を配付して広く利用促進を図った。ブックリストなどもテーマ展示に合わせて作成しているが、課題としては学校には配付していないので、そういったものの情報提供の検討が課題である。感染状況もあり、イベントを実施できないということもあったので、例えば、ビブリオバトル以外でも有効なイベントはないかなど検討していく必要がある。

先ほど、利用状況の表について説明をしたが、やはり 10 歳未満の子どもの利用状況をみると主に保護者が利用者カードを作って、一緒に図書館の本を借りているという状況が見られる。さらに図書館訪問で利用者カードを作ってもらうが、利用の状況がそれほど伸びないというところもある。そういった年代のポイントで利用率が落ちていくというところがあるので、どのように PR していくのか、どのようなイベントや事業を考えていくのかというところを引き続き検討していくというのが図書館の自己評価である。

会長           いくつかの評価ロジックがあると思うが、基本目標 1 では 3 つの取り組みがあるが、その項目に対する実績、それについての図書館側の自己評価、それぞれに対する整合性、実績、課題に対する見解などを見ていくということになる。ご意見や感想をお願いしたい。

会長           図書館の自己評価の中で、図書館を利用していない多くの方に図書館を知ってもらうことができたとあるが、これはどうやって検証したのか。

図書館長     それについては、数値や統計で表せるものではないので、図書館がイベントの中で利用者と会話をする機会や図書館に対して「各課へのお問い合わせ」ということでメールでご意見いただく中で、SNS で発信している情報について、とても内容がよかったとか、例えば NDC 擬人化キャラクターなどについても

キャラクターがかわいいし、毎月本を楽しみにしているなどご意見を何回かいただいており、また、イベントなどでも声をかけていただいているので、自己評価とした。しっかりした統計上の数値はないところである。アンケートなどをいづれしていけば、もう少し正確に把握できると思っている。

会長 そうであれば、ひと言書いてあった方がいい。どうして知ってもらえたのかという疑問がでてしまう。

委員 グリナード永山でのパネル展示とかはとても工夫されていて、大変良かったと思う。結果に関しては、コロナ禍ということもあり、思うように評価できるかというところすごく難しいと思う。本来だともっといろんなイベントをしたかったのだと思うが、これしかできなかったのだろう。その中で頑張ってもらったと思う。NDC擬人化キャラクターについては、最初はこんなので子どもが来るのかなと思ったが、若い人には好評のようである。こういうのをつくるのも大変なことだと思う。作ってやってみようという努力はすごく評価できると思う。

委員 先ほど会長がおっしゃったように、多くの方に図書館を知ってもらえたというのはちょっと抽象的かなと思った。NDCについて、多摩市は10年以上前から、各小・中学校で学校図書館司書が毎日入っており、NDCについても子どもたちに本のラベルを見ようねという事で、0から9までどの学校図書館も掲示されている。非常に身近になっているところに多摩市立図書館では、NDC擬人化キャラクターを作った。多分、小学生もピンと来ているだろうと思う。やはりこれから本を自分で使っていく主体者になるためには本の仕組みを知ることとは大事だと思う。私は、司書のいないところで育ち、図書館で勉強することを覚えたのは、高校から大学へ入る受験勉強の時、大学でのレポートを書く時だった。せっかく整った図書館があるので、若年世代の利用促進はとても大事なことだと思う。例えば、具体的に図書館員が中学校に出向いて、実際にはこんなものがあるんだよとか、実際の体験を語るアウトリーチ的な活動も有効なのではないか。ただ、発信して来てもらうのを待っているのではなくて、図書館の方から出向いていく、前に中学生のための絵本講座を提案したら馬鹿にされてしまったこともあるが、そんなことはないと思う。絵本も多種多様なものがあり、中学生にとってどんなものがあるのか司書がよく知っていると思うし、学校と連携する一つの方法として、図書館

員が学校に出向き、学校図書館司書と協働する。他の先生方も見に来るだろうし、司書教諭を通じて学校職員にも伝わる有効な方法になるのではと思う。

感想としては、「かがみの孤城」というのがベストリーダーに出ているというのはすごくいいなと思った。これは脈があるのではないかなと思った。小学校でも置いているところが多いし、電子書籍はどの年代が読んでいるかわからないということであったが、脈があるなと思った。

今回、中央図書館開館というのがチャンスになると思う。できた時にどれだけ囲むか、後手後手にならないように開館の前にちょっとでもできることはこちらから出かけていくというところに力を入れた方がいい。一人が百冊の本を読むのではなくて、百人が一冊づつの本を読むそんな中央図書館になって欲しいと思う。

委員 10歳代の登録者数が多いというのは2年生の図書館訪問であり、すごくありがたいなと思っている。ここで図書館に行っただことがある子もない子も経験させてもらえるというのは今後とも是非続けていただきたいと思う。ただ、利用がなかなかされないということはその後の継続的な支援ができていないのだと思う。今度、新しい図書館が出来た時に、例えば、二小から子供たちがそこまで行けるかというバスで連れて行ってもらうのと難しいと思う。南鶴牧や落合の児童だったら自分で行けるだろう。最初のインパクトはすごく大事だと思うので、思い付きではあるが、今年度水泳指導が外部委託になって、京王バスと連携して、水泳指導の場までバスで運んでもらっている。予算取りができれば、バスで1回新しい中央図書館が出来た時に各学校の何年生かターゲットを絞って見学会みたいなものができるとそのあと繋がっていくかなと思う。お金がかかることなので難しいかもしれないが、1回どこかの学年で新しい図書館を経験しておくということができれば、そのあとの過程につながるのではないかなと思う。

委員 先ほど会長からご指摘のあった、多くの方に知ってもらうことができたという表現は、非常に不満である。具体性がない。SNSを通してということがあるのなら、現状フォローをしている人の数とかはでないのか。

図書館長 あると思う。

委員 それが例えば、発信数に応じて、増えているとか減っている

とかどういう変化があったかを発信時とそのあとの追跡をすればデータとして取れるのではないかと思う。

私が顧問をする大学のサークルがポップを作って展示をさせていただいたが、その展示をした資料の貸出状況とかはどうなのか。例えば、展示後に貸出やリクエストが増えたとか。展示しても全く貸出が増えなかったのなら効果がなかったという可能性もあるが、すぐ貸出があったとなれば、それなりに効果はあるということだ。全体的にやりましたとあるが、やった後の効果がどうだったのかと明示するのが本来の評価である。これは、一つの案であるが、例えばサークルで展示を出しました。そこにカードを置いておき、カードを持ってきて貸出したら、特典でなくても、よく見てくれたねと褒めてあげるだけでもいいと思う。それからカードを持って行ったけど、既に貸し出されていたとしたら、他にもこんな本があるよと次を提示することもできると思う。次につながる作戦をもっと用意して、その作戦でデータが取れるような仕組みを作っていくかと思う。

企画運営係長 今すぐは出せないが、展示した本は把握しているので、その期間中どれだけ貸出があったかは出すことができる。次回の会議までには出せると思う。

委員 今、次回の会議までにとあったが、私たちも展示をしたときにどのような結果になったかというのを報告されることがほとんどない。今、委員がおっしゃたが、大妻女子大学の方も協力したが結果の報告がなかったと思う。こういうところで報告されるのはいいが、協力してくれた人に対して結果の報告があってもいいのではないかと思う。

前に協力した時に一人の方だけ報告していただいたが、ほかの方は報告がなく、いろいろなところに協力を要請したら、こういう成果がありましたと報告があった方がいいのではないかと思う。

図書館長 今のはほんともフェスタのことだと思うが、報告についてはこの会議でも報告したり、教育委員会で報告したり、ホームページにも掲載している。それをそれぞれ協力していただいた方にお知らせをしていたかどうか確認は取れないが、そういったものに今お話しがあった実績を掲載した上で、報告できるようにすればよかったと思う。

委員 正直に言うと、あまり数は信用していない。ここで実績として打ち出すというのはいい面もあるが悪い面もある。だから、参考のために出すというのはいいと思う。それが評価にいい、悪いとつながるかどうかは別の問題である。例えば、電子書籍のベストリーダーの一番上は貸出回数 45 回であるが、最長 2 週間借りられるとするとほとんど貸出中に近い。これは毎日ずっと読んでいる人がいるかもしれないという風に見える。そういう解説を取り入れながら、いいこと、わるいことを出していければ、評価としてはもっと良いものになるのではないか。

委員 若年世代の利用促進で多様な手段、場所での広報活動を実施するとある。多様な手段というのはいいと思う。そこで多様な手段というのはどんなものがあるのか。たまたま八王子市の中央図書館で「小学生のための調べる学習体験講座」というのをもと八王子の教員がやっていた。多摩市にはいないが、学校図書館サポーターというのを杉並区と荒川区と八王子市がもっていて、学校と図書館を繋いでいる。3年生から5年生を対象に図書館で、テーマを決めて調べ学習をする。指導するのは元教師、サポートするのは司書教諭や司書。本を探しに行こうとなるとお手伝いがいる図書館に行き、実際に本を調べて、テーマに調べたことやまとめ、出典など調べたことをレポートにまとめる。コロナ禍でも人数を絞れば、そういう事ができる。中央図書館ができれば、子どもたちも夏休みに参加できる、そんな多様な方法もあるのではないかと思う。

委員 多摩市公式 SNS で発信しているとあるが、自分も最近登録したが、普段から自分で情報収集しているが、あれしたいなと思っても忘れてしまうことがよくある。そういう時にいいタイミングでくると、そうだそうだと思いだしたり、図書館だけの情報であれば、擬人化キャラクターのお薦めの本なんかこんな本があるんだと、自分の好きな情報だけでなく、いろいろな情報が入ってくるのが便利でありがたい。ただ、SNS に関しては登録していないとどうしようもないが、発信していくのは大事だなと思う。

貸出の登録者数の表は、10代はとて少ないように表にでていますが、親子でいると子どもの貸出カードではなく、意外と親の貸出カードを使って借りていることが多い。子どもの利用者カードは作ってはいるけれど、使っていないことも多い。持っていて、自分のカードは使ってなくて、でもちゃんと読んでい

る子がいるのではないかと思う。この表だけを見ると少なそうに見えてしまう。親子で図書館に来て、親のカードで借りて読んでいる子がいるのではないかと思う。数字だけですべてわかるわけではないと思う。

会長

今、おっしゃったように基本目標のタイトルが若年世代の利用促進で先ほど館長からデータを出していただいた貸出者数と登録者数の表だが、数字から見ても、10代、20代、30代は手ごわい世代である。非常に課題は多いと思うし、図書館としての数値の出し方言えば、登録件数と貸出件数しかないわけで、図書館での貸出数というのは重要な指標であるが、一方では、貸出を伴わない来館者だとか、あるいは電子書籍のような来館を伴わない利用者など、さまざまな利用がある。それを総合的に評価することが図書館の評価につながると思う。

新館開館が大きな機会で、貸出者数だけを上げていけばいいのではなくて、魅力ある図書館にするためにはどうしたらよいかを考えていかなければならないと思う。

委員

図書館はもちろん本を借りに来るが、勉強しに来る人も多い。自分も中学生の時が一番、本は借りてないけど自習室によく行っていた。勉強の合間に全然関係ない本を読んで息抜きしていた。10代に関しては、図書の貸出が無くても自習室のようなところで、本を借りなくても、図書館を利用するきっかけになるのではないかと思う。今は全然、自習室みたいなのところにはいかないが、永山はベルブ永山のなかの一部屋を自習室みたいにして夏休みの期間だけ、学生が勉強できるスペースを確保してあげるとか、別の利用促進の仕方があるのではないか。

図書館長

ベルブ永山は休みの期間中、自習できるようなところを公民館の方で用意している。図書館の場合だと、関戸図書館の活動室を活動の無いときは、自習室みたいになっている。学生が使うだろうということで、カウンターから活動室に行くまでの導線でティーンズコーナーを設けて、展示などをして、目に留まり、本を手にとってもらえるような機会を設けたいと考えている。だいぶ前にレイアウト変更したが、それをもってどのように変化したかは把握していない。そういった工夫はしている。

会長

自習室のありかたはなかなか難しい。大阪の図書館が、閲覧しなくてもいいから勉強しにいらっしゃいといっているが、それも手だと思うが、それを始めると今度は閲覧コーナーにまで勉強しにいつてしまっ、図書館の本とは関係ない利用になっ

てしまい、図書館の利用者からしてみれば、なんだこれはとなってしまう。時期に応じとてか、いろいろな方法があると思う。頑なに本を置かなくても利用を広げていくという意味では様々な取り組みをしたらいいと思う。

委員 先ほど、年齢別の登録者数の話が出たが、特に10代について、10代をまとめて刻んでいるのに違和感を覚える。極端に言えば、1歳毎に数字を出してほしい。1歳毎に出すとその年齢の特性が見える。10代でまとめてしまうと10歳から19歳まで全部入ってしまう。小学生と大学生では全然ちがうので、きちんと分けた方がよい。他の年代もうまく刻んでいけば、傾向が捉えられるのではないか。

図書館の利用について、把握が非常に難しい。貸出数か登録者数か近時の利用者数になってしまう。中央図書館はICタグを使用すると思うが利用者証にもICタグが入っているのか。

図書館長 利用者証はバーコードで特に情報は入っていない。ただ、盗難防止でゲートを設置するので、来館者数はカウントできる。時間別の来館者数くらいである。

委員 ICカードだったら、それをもとに年齢別の数値を取れる可能性があると思った。

図書館長 アナログになってしまうが、入口にボードを置いておいたりして、何をしにきましたかとかでシールを貼ってもらうとか、そういうのを一定期間やってみるとか、そういう努力をすることが必要だなと思う。どうしてもシステム上で出る統計を使ってしまう。

会長 テーマ展示やブックリストの作成を行なっているが、市内の学校に配布していないため、手法について検討が必要であるとあるが、手立てはあるのか。

図書館長 昨年度にホームページにブックリストとパスファインダーのページを作って、必ず掲載するようにしているので、そこでは見ていただいていると思う。学校にお知らせするのは、年に1回図書館ニュースにブックリストを載せたりしているがもっと頻繁にブックリストを作っているのもう少し、直接学校にお知らせしたいというところである。あとは学校図書館司書にデータで渡して置いてもらうとか、そのあたりの効果的な手法の具体化がまだまとまっていないので今後の検討が必要だというところである。

会長 若年世代にとってビブリオバトルが有効なイベントなのかも

再検討しつつとあるが、これはどういうことか。

図書館長

ビブリオバトルは、コロナ前に実施していたが、なかなか多くの参加者が集まらないところがあって、もう少し、大人数でできないかなというところが課題である。それを学校単位で声かけするとかなり大きな事業になってしまうので、もう少し、気軽に参加できるようなイベントを考えた方がいいのではないかということである。

委員

各学校の図書委員会の横のつながりはないのか。

図書館長

各学校では、学校単位でビブリオバトルなどをやっている。学校間のつながりは把握していない。

委員

もし、繋がりがあれば連携も可能かなと思う。ブックリストの配付についても、各学校の Web のページなどに掲載してもらえるようにデータを送れば、見てもらえる可能性も高いのではないか。多分、冊子で出すより、先にデータで出してみても、要望があれば冊子で出す方がよいと思う。

委員

学校は、今、アプリでいろいろ配信される。アプリで配信してもらえば、自分でアクセスしなくても見られるのかなと思う。

図書館長

教育委員会からの配付物なども学校から配付しているが、もうそういう時代ではないのか。

委員

ホームページに掲載したり、メール配信をしたりするが、情報量が多いので、いろんなどころから配信すると大事なお知らせを読まなくなったりしてしまうかもしれない。

会長

基本目標 2 に移りたいと思う。

図書館長

基本目標 2 子どもへのサービスの充実は、資料では 5 ページからになる。実施結果を 5 ページから 7 ページにまとめた。8 ページが図書館の自己評価であるが、先ほどご指摘があったが客観的な評価として書かれていないところもあり、申し訳ないところである。1 点目は子どもへのサービスというところは、第三次子どもの読書活動推進計画の推進を進めていくということで図書館では行っている。計画期間の前半が終了したので教育委員会などで中間報告を行ったところである。協議会でも報告をした。計画が令和 2 年度までであり、順調に進んでいるが、それ以降のコロナ禍の中で一部計画がうまく進んでいないところがある。今後、後半の目標の中でやっていきたい。2 点目は、「多摩市立図書館ニュース」というのを昨年度から発行している。当日配付資料として、今年度分を紙で配付した。情報発信として、中央図書館についてや「みんなの知りたいを応援する

図書館」としての役割なども子どもたちに知って欲しいというところで、学校を通じて全児童・生徒に配付している。その中で中学生向けをこれまで発行して来なかったのが、今年度発行する予定である。それに対しての反響がどのようなものであったかというのがなかなか把握できていない。ブックリストの「よんでみよう！3・4年生」の改訂を昨年度しており、大幅な見直しをして計画的に更新をした。学校では学校図書館司書や司書教諭が実際使用し、読書啓発をしているがその感想はまだ聞けていない。ただ、そういった活動を学校図書館司書の研修などで説明をしているので、学校からの要望に対して、図書館の活動を知らせる場を設けてもらい説明をしたり、学校連携の場の活性化としては以前より繋がっていると思う。それ以外では、永山図書館で都立多摩桜の丘学園や不登校の教室のゆうかり教室の児童・生徒に図書館に直接来てもらって、図書館紹介や司書の仕事の紹介をするといったことをしており、ゆうかり教室からは内容についてとてもよかったと感想をいただいているところである。

会長  
会長

説明を受けて、ご意見や感想はあるか。

基本目標2は項目が一つしかないが取組項目が多数あり、一つ一つが大変である。取り組みの中でPRをしたとあるが、これについて自己評価ではあまり触れていないように思うが、PRをすることが目的ならいいが、本当にPRできたのか検証されていないのではないか。ちゃんとしたフィードバックがないのでわからないということだが、そうなる自己評価の説得力が若干欠けてきてしまうと思う。PRをした結果がどうだったのかというところが知りたいと思う。取り組み項目はしっかり書いてある。イベントを実施し、アンケートを取り、役に立ったとたくさんの感想をもらったというのはきちんと検証されていると思う。これは説得力がある。ただ、全部はできないかもしれないがこういうことをしないと説得力が欠けてしまうと思う。

委員

昨年度、「よんでみよう！」について随分、2000年代の本が多いと言ったが、3・4年生の改訂では、NDCに分けたり、改訂年月日を入れたり、わかりやすくとてもいいと思う。細かくたくさん書いてあると、見る方もうんざりするが、ジャンル別になっており、いいなと思うので、今年度は5・6年生の改訂を楽しみにしたい。

昨年からはじめた「多摩市立図書館ニュース」を中学生にも

配るといっているので、これもいいと思った。

学校図書館への支援とあるが、物流は週に何回ですか。

企画運営係  
長

週3回である。

委員  
図書館には来なくても、学校図書館を通して子どもたちの手に渡っているという事でお金もすごくかかると思うが、これからも続けて欲しいと思う。

委員  
「よんでみよう！」に大人の方へと書いてある。もちろん子どもに向けての本であるが、「大人の方へ」と書いてあるのがいいなと思った。

図書館長  
「よんでみよう！」は図書館の担当職員がこれを作るにあたり、学校での利用状況や学校図書館司書の意見を聞いたりした上で作り込んでいる。ある程度できたところで、学校図書館司書にもう一度意見を聞いたりして、しっかりと作っている。今回の改訂版から、「大人の方へ」というメッセージも大切だということで入れるようにした。絵も職員がオリジナルで書いている。これを作るのにも意見を聞いているので、今度はどのように使われているのか把握していく必要はあると思う。

委員  
一番難しいのが、図書館を利用していない方々をどうやって図書館に来てもらうかということだと思う。直接、来てもらうという手はないか。何か媒体を通して、図書館にどうぞというのでは力が足りない気がする。直接、図書館に来てもらうような仕組みがあって、始めて来てもらうこういう楽しみがあるよという企みがあってもいいのではないか。確かにリーフレットやパンフレットはそれなりに見てちょっと来ようかなという気にもなるが、見るのと来るのは全く違うので、是非、来てもらう仕組みがないかなと思っている。

図書館長  
小学校2年生は図書館訪問でクラス単位で図書館に来る。それはほとんどの学校で来てもらっている。そこで地域の図書館にも行っている。ここでは直接話ができる。それ以外のところでは、イベントの実施でバックヤードツアーなどもするが、それは応募した方で多くても20人くらいである。

委員  
例えば、2年生対象は図書館の使い方とかなので、学年を5・6年生とかにあげてバックヤードツアーとか知らなかったところに初めて来て図書館の知らなかったところを体験すると最近図書館に来てなかったけど、また来ようかなと思う動機付けになるのかなと思う。

- 委員 昔は子どもたちは図書館に図書袋を持って行っていた。これだけ不審者が多い世の中なので、小学校では例えば愛宕から多摩センターの図書館まで一人で行くというのは学校としては、夏休み前とか普段の生活では勧めていないだろう。保護者と一緒に行きなさいとか友達同士ではどうか。
- 委員 年齢が上がってくるとあると思う。
- 委員 4年生以上とかならう。やはり3年生以下の場合は保護者と一緒になってしまうと本当に条件が合う子ということになる。楽しいイベントなどを人数関係なくやるのはどうか。今までやっていた記憶がないが、どうか。
- 図書館長 年に2回、児童向けに講演会を実施している。最近だと、医師の方にきていただいたが、絵本作家や児童書の作家に来ていただいたり、ワークショップをしたりというイベントをやっている。
- 委員 そういうものではなく、広いところで集まってパフォーマンスが入ったり、絵本を使いながら、みんなで集うみたいなそういうイベントを年に1・2回するということのもいいのではないか。
- 図書館長 コロナ前は、渡辺茂男さんの息子さんの鉄太が年に1回くらい来て、絵本を読み聞かせしてみんなで集まってということをしてきた。そういった機会を設けることはできると思う。
- 委員 聞かせ屋。けいたろうさんはちょっとジャンルが違うと思う。
- 委員 2019年度に文庫連で呼んでいる。コロナが始まる直前くらいでやった。コロナ禍でなかなか難しいというところもあるだろう。
- 会長 確かに魅力ある講演はあると思うが、施設自体の魅力をわかってもらえないといけない。中央図書館の開館はいい機会である。開館する時には、新聞やテレビや雑誌などに取り上げられると思うので、うまく利用して、まず知ってもらって、来てもらって、魅力を知ってもらおう。うまく活用すれば、相当効果がある。今回が最大のチャンスだと思う。ティーンエイジャーから20代になってもリピーターになって帰って来てくれると思う。
- 委員 今回、子ども読書まつりの講演会に行ったが、「感染症と人類の戦い」と「紙芝居の世界」と二つ行っていた。どちらもコロナ禍ということもあり、感染症は参加者も多かったと思うが、保護者には働きかけ出来たと思うが、子どもには必ずしも働きかけできなかったのではないかと思う。紙芝居の世界はある程

度若い人がいたが、それほど多くの参加者がいた感じではなかった。もちろんコロナ禍で仕方がなかったのだろうが、取り組み方がこれでよかったのかなと思う。何がいけないというのではないが、宣伝の仕方とか周知の仕方、何が問題かはわからないがなんとなく催しをやって人が集まったらいいだろう的な感じにみえる。目的は何なのか、何の為に人を集めるか、それにふさわしい人を呼んでいるのか、それをどういう風に目的の人たちに届けるのかということがちゃんと出来ていないように思う。

図書館長 1年近く前からかなり力を入れて、どういう風にやっていこうかと考えたもので、結果として参加者が少なくなりましたが、もともと児童・生徒や、ティーンズ向けの講演会として、「感染症」というタイムリーな内容とキャリア教育について医師の方に来てもらって職を紹介するというものであった。コロナ禍の中で医療従事者の方はさまざまな職種があるのでそういったことを子どもたちに知ってもらいたいというのが目的であった。ただ、結果として感染が拡大したりという中で、子どもたちにも感染が広まり、難しかった。外出自粛という時期になってしまったので、内容を変えてもらって、感染症に特化したものにしてもらった。

委員 内容もよかったし、コロナ禍なので仕方がない部分もあると思う。次に行く「図書館は日本を救う」は対象が中学生からとなっているが、中学生や高校生にも来てもらいたいのだろうと思うが来てもらえるのかなとも思う。そのあたりの動向をどのようによんでこれを行っているのか、どういう風に宣伝しているのかが気になった。次の講座にも前の経験を活かして欲しい。

図書館長 来てもらうよりも学校へアウトリーチしている場所に行った方がいいのではないかと考えており、講演会というやり方も変える必要があるのではないかと内部では検討しているところである。

委員 ネットでリアルタイムで配信したり、撮影してあとで視聴したりということは考えたのか。

図書館長 後で配信する場合には、字幕を付けたりだとか編集があつて作業が内部的に追いつかない。アーカイブ関係で講座が中止になったので、講座を収録して公開したが、かなりの事務量がかかった。

委員 リアルタイムでも発信して、来られない人はそれを見てもら

うというのも手だと思う。多分、倍は来ると思う。手間はかかると思うが、アーカイブして後で視聴としなければ、手法としてはいいと思う。会場に来れない人の手法がない。

会長 本日の評価はここまでとする。

会長 議題2「多摩市立中央図書館整備の進捗状況及び多摩市立中央図書館管理運営方針（素案）」について、事務局から説明をお願いします。

中央図書館  
整備担当課  
長 資料2-2である。中央図書館建設工事の状況である。来年3月15日までかけて工事を進めている。ここに8月には屋根工事に着手し、9月以降に内装工事へと進む予定とあるが、実際には内装工事は7月の終わりにちょっと前倒しで進めている。屋根工事は少し先送りでも9月に入ってしまう予定である。柱などが建っているところをご覧いただいていると思うが、屋根が建つのが9月になってしまうということである。昨今のコロナ禍やウクライナ侵攻の影響を受けて、かなり苦しい状況であるが、順調に進めているというところである。

図書館長 2点目は、中央図書館の開館日について確定したのでお知らせする。まず、多摩市立図書館本館の閉館日は令和5年5月7日である。多摩市立中央図書館の開館日は令和5年7月1日である。これに合わせたイベントなどをこれから検討していく。

3点目は、多摩市立中央図書館の管理運営方針について、5月31日から6月18日まで市民団体の方のヒアリングを実施した。本日、初めて素案として協議をいただくところである。今後の予定としては、11月に原案の確定をしていくが、その間に市民説明会・パブリックコメントの実施を予定している。スケジュールは以上である。

図書館長 前回、骨子案のところで協議をいただき、市民団体からのヒアリングもしたので、その内容を盛り込んで素案というかたちにとまとめた。資料2-4の冊子状のものと資料2-3である。

ヒアリングについては、基本計画策定時にヒアリングをさせていただいた団体を中心に5団体と多摩市若者会議に実施した。また、第三次子どもの読書活動推進計画のボランティア連絡会のみなさんにもヒアリングをした。

表だてになっている意見と素案を並行しながら説明する。表だての意見の1番はじめにということでこれはこれから入れていく予定である。2番管理運営方針の役割というところで管理運営のあり方を定めるものであり、図書館の全体計画はまた新

たに更新をしていく。素案の3ページに中央図書館開館に向けた計画と図書館の長期の事業計画というところで表は骨子案から変更している。4番多摩市立図書館の基本方針・運営方針の記載がないというご意見をいただき、素案の2ページから3ページに記載をした。5番中央図書館の施設のところに関して、トイレがどこにあるかわからないといったご意見をいただきましたので、素案の7ページ、9ページに図でいうと12番というところに表示をした。また、素案の5ページに平面図が入っているが、場所がよくわからないということがあったので場所の案内を明示した。素案の6ページからフロアの案内になるが、1階・2階のフロアが部分開館ができるような構造になっていないのかといったご意見をいただき、閉館後も利用できるようなにならないかというご意見もあったが、設計上は部分的に開館できるようにしているが、現時点では、開館時間を9時30分から20時までということでその中でサービスを利用いただくことを予定している。今のところは部分開館ということは考えていない。今後、閉館後に部分開館も可能な設備であるということである。また、ベビーカー置場だったり、書架の間をベビーカーを押したまま通れるかというご意見をいただいております、ベビーカー置場は2階で素案7ページの13番である。書架間はベビーカーも車いすも通ることができる間隔である。素案の中では、カフェのスペースは2階にあるが、今後カフェの出店事業者を募集する予定である。緑陰読書ということで、公園でレジャーシートを貸し出してほしいというご意見もあったが、その予定はない。素案の8ページに個人研究室があるが、半個室となっているが扉を閉めて鍵をかけることができるかというご意見があったが、半個室なので扉と鍵は設けない。フロアにはコピー機があり、図書館にある資料のコピーは今まで通りとることができるが、自分で持参した資料はコピーできない。自由にコピーできないかというご意見をいただいたが、図書館の資料は著作権法第31条の範囲で複写することができるが、第30条で公衆の使用に供すること目的として設置されている図書館等の複写機では私的使用のための複写は認められていないという見解がある。自分で作成した著作権が自分であるというものに関しては、コピーができるのでそれに関してはコピーできる運用を検討していく。これについては、庁内の法務相談でも確認をする予定としている。また、内部事務用コピー機と印刷機

を置く予定としており、素案 10 ページの 3 番印刷製本室というのがあるが、コピー機と印刷機と障がい者サービス用点字プリンターを置くことを予定しており、それ以外の利用は考えていない。市民活動のために作成した著作物のコピーは 1 階のコピー機を利用させていただくことを検討していく。

素案の 13 ページにバリアフリーの記載があり、障がい者用の駐車場に関しては車椅子の利用者に限定するのかというご意見があり、歩行が困難な方を優先して利用いただく想定で、譲り合って利用いただくように管理をしていく。また、バリアフリーに関しての根拠法令なども入れた方がいいのではないかとということで多摩市の視覚障がい者の福祉協会にヒアリングしご意見いただいたので、13 ページに根拠法令などを記載した。点字ブロックについてもヒアリングの時にご意見をいただき、多摩センター駅からの点字ブロックのつながりについて、館内での点字ブロックの配置についてということでもとめてある。また、開館前に視覚障がい者の方に施設案内の機会を設けたいと考えている。エレベーターについても音声案内や押しボタンの凹凸など、また、トイレについても音声案内機能を付けて欲しいと言われており、それについても検討しているところである。また、不便な点があるようであれば、カウンターの職員が案内することを考えている。空調についてもご意見をいただいております、特に障がいのある方ですと体温の調整が難しいということで、個別の温度の上げ下げができないかのご意見をいただいたが、そこまでの対応は難しいので服装で調整していただくようお願いしたいと思っている。

図書館長

素案 15 ページ中央図書館の資料について専門書などが中央館に集まると、地域館の棚は専門書がなくハウトゥーものばかりになってしまうのではないかとご意見をいただいたが、各館の専門書や参考図書に移管するにはそれぞれの拠点館の職員が利用状況を把握したりして、基本的な調べものができるように必要な資料は各館でも引き続き配架していくと考えている。例えば、児童書に関しても子どもは行動の範囲が限られているので利用できる図書館が限定されるので基本各図書館の所蔵冊数について大きく変更することはない。このあたりの説明を加筆している。

素案 17 ページから中央図書館の機能とサービスについて、中央図書館に変える意義をしっかりと記述した上で充実したサー

ビスを本方針の中心に据えてもらいたいということがあり、加筆した。中央図書館の機能という項目立てをして加えた。豊富な蔵書とそれを保管できる場所、さまざまな機能をもった中でのサービスをしていくというところをまとめた。中央図書館のサービスというところも開館に合わせて、さらに展開するサービスに関しては、新型コロナウイルスの感染拡大ということもあったので、生活様式の変化や働き方の変化を踏まえた上でデジタルを活用したサービスの向上や身近な図書館で情報収集ができるなどの視点を加えて検討してきたので、文章として加えた。後で目を通していただければと思うが、閲覧、貸出、予約サービスについても職員が常駐するのかという意見もあったが、カウンターには職員が常駐することも記載した。レファレンスサービスという項目も加筆しているので見ていただきたい。サービスに関するところは図書館の考えを伝える文章を加筆した。

素案の18ページデジタル化に対応したサービスでは電子書籍の充実やデジタルアーカイブはコンテンツの追加を行い、図書館に来館できない方へのサービスを行っていきますという事を加えている。資料企画展示では新たに地域企業と連携しながら、地域企業を紹介するような書架を整備することを記載している。子育て世代向けサービスというところでは、サテライトカウンターでのブックトークだったり、本の紹介を行ったり、パルテノン多摩ではイベントなどを行いつつ、中央図書館では豊富な図書の貸出などを進めていく。19ページについても加筆しているところはあるので読んでいただければと思う。地域ビジネス支援サービスは、ビジネス支援というのが曖昧過ぎて、図書館でどこまでできるのかというご意見があり、身近な拠点として多摩で持っている固有の情報を情報提供するというかたちにして行った方がいいのではないかというご意見を教育委員会の定例会でいただいた。身近な拠点として企業の創業や、スキルアップや資格取得などの資料を提供したり、市として持っている情報を提供していく。多文化サービスのところは多摩市国際交流センターと連携をし、アウトリーチ活動をしていきたいというところを追記した。素案の20ページ市民との協働の考え方にご意見をいただいた中で具体的にどのように考えているのか追記をした。古くから活動していただいている団体と一緒に事業をしてきたという歴史があるので、さらに市民のための

図書館ということで中央図書館の開館を契機に市民の方にもボランティアとして参加して欲しい、中央図書館を開館して運営してくのに協力いただきたいということもあり、そのような多摩市らしい構築をしたいということで文章をまとめた。素案の 22 ページは中央図書館と地域図書館の役割や違いがわかりづらいというところがあったので、修正を加えた。管理運営の主体については、図書館のサービス計画や資料構築など、図書館政策の基幹の部分については市職員がしっかりやっていく、これまでの本館と同じように市の職員により中央図書館を運営していくということを書いている。中央図書館と駅前拠点館、地域図書館のサービス役割分担というところは、一部修正を加え、わかりやすくまとめた。素案の 23 ページには本館と中央図書館の違いを書いて欲しいというご意見があったので、中央図書館の役割として各館を支援する、幅広い資料と閉架書架もしっかり整備していく、多様な目的に対応できる館内施設と設備を活用したサービスを実施していくことを考えており、地域の図書館については、ふれあいを大切にしたサービスをキャッチフレーズにしたが、違和感があるというご意見があり、地域図書館として地域に向き合うサービスということでまとめた。素案の 25 ページの職員の研修に関しては、休館日を増やしてでも研修をして欲しいというご意見もありましたが、図書館の利用を求めている方も多いうちでは休館日を変更することはこの案のおりと考えているので、その中で研修をしていく。素案の 26 ページ開館時間・休館日というところになるが、ヒアリングの中でもいろいろなご意見をいただき、20 時までの開館は必要だとか、18 時くらいまでの開館でいいんじゃないかとかご意見をいただいたが、図書館としては開館時間を 20 時までとして、地域館の開館時間を 17 時までというところで考えている。地域館に関しては 17 時以降の利用が現状少ないということもあり、開館時間を見直していく。また、地域館の開館時間に関しては、17 時までというのは仕方がないと思うが、時間を短縮しても事業やサービスの低下することなく、よりよくなるのであればいいのではないかとご意見をいただいている。図書館としては、日々のサービスが低下することなく、地域の図書館として愛される図書館を目指していく。

図書館長

貸室の運用については素案の 28 ページであるが、原則有料になるということを前回説明した。原則有料になるのはやむを得

ないが図書館関連の活動については負担が無いようにして欲しいというご意見をいただいた。原則は有料となることを考えているが、貸室使用料の想定額については庁内で検討を進めており、調整が済んだら、提示したい。IC タグについては、電磁波に弱い方がいらっしゃるというご意見をいただき、IC ゲートの電源を切ることができるので、声掛けをいただければ、対応できる。素案の 29 ページ施設利用時の注意事項については、館内での飲食や BGM についてご意見をいただき、それについて説明している。素案 31 ページの駐輪場に関しては、近隣の駐輪場を利用するとあるが、割引サービスはあるのかというご意見をいただいたが、近隣の有料駐輪場は商業施設での金額に応じた割引サービスを提供しており、図書館は無料で利用いただく施設なので現在のところは独自の割引サービスは考えていない。駐輪場に関しては、一定程度の利用者に関して配慮が必要ではないかというご意見をいただいております、子どもたちも利用するので 3 時間までの利用は無料とすることを想定している。それぞれ団体や教育委員会などからいただいたご意見を要約して、反映できるところは反映し、素案としてまとめた。

ご意見をいただければと思う。

- 会長 今後の予定は、資料にある通りか。
- 図書館長 その通りである。1 週間くらいの間でご意見をいただければと思う。この後、パブリックコメントや市民説明会があるので、ここでいただいたご意見を反映するということはスケジュールとして考えていない。
- 会長 9 月にパブリックコメントをやるのか。
- 図書館長 そのとおりである。
- 委員 素案 31 ページの駐輪場のことだが、閉館時間中の夜間等に自転車の出し入れに伴うトラブルが発生することを防止するためと書いてあるが、どういったトラブルを想定しているのか。
- 中央図書館  
整備担当課  
長 駐輪場については、ラックに入れるタイプの駐輪場とチェーンロック式のバイク駐輪場を想定している。多くの駐輪場でそういう設備があるが、夜間にラックを強引に外すというトラブルが非常に多いと聞いており、それに伴い壊されてしまうと修繕にお金がかかってしまうということもあり、駐輪場自体を夜間は閉鎖しようと考えている。
- 委員 閉鎖すること自体はいいと思うが、閉鎖する時間が図書館が閉鎖する時間だと 20 時である。パルテノン多摩は 22 時までだ

ったかと思う。パルテノンの駐輪場は車道から入るところにしか駐輪場がなく、歩道から入る駐輪場がないから多分、パルテノンに来る人も図書館に停めるのではないかと思う。また、パルテノンの駐輪場は狭く、たくさんの人は駐輪できないので、多くの人は付近の駐輪場に停めていると思う。図書館があるということで、パルテノンに来た人は図書館に停める可能性はかなり高いと思うので閉める時間をパルテノンの閉館時間に合わせて欲しいと思う。

中央図書館  
整備担当課  
長            まず、パルテノン多摩の駐輪場については、地上階のところにもあるし、4階の子ども広場オリーブの前にも駐輪場を用意するタイミングもあると聞いている。無料で止められる場所になっていた。

                図書館として、どこまで駐輪時間を設けるかというのは非常に難しく、他の施設の営業時間までで閉めるとなるとそこまで職員がいけないといけない。現実的には難しい。駐輪場の料金などを書いているところに何時までで閉鎖しますということを示して、図書館の利用者の方に使っていただきたいと思う。

委員                  パルテノンに駐輪できるのであればいいと思う。ただ、閉館が20時だからとって、直ぐ閉めるのか。

中央図書館  
整備担当課  
長                  職員が帰る時に閉めるつもりでいるので、もう少し後かなとは思う。

会長                  駐輪場の運用は利用者数しだいなので悩ましい。

中央図書館  
整備担当課  
長                  すぐ隣のクロスガーデンにも駐輪場があり、同じようなラック式でその運用をまねさせていただいた。

会長                  整理要員は配置する予定か。

中央図書館  
整備担当課  
長                  整理要員は配置しない。

会長                  開いてみないとわからないが、武蔵野プレイスは駐輪場を結構用意したが結果的に台数が足りず、後から増やした。人もつけないと並んでしまい、混乱する。近隣の駐輪場も確保したが、利用者は図書館の駐輪場に停めたがる。夏休みや土日などはどれくらい集客があるかわからないが、悩ましいと思う。混んでくると利用者同士のトラブルもあったりする。

中央図書館                  クロスガーデンの駐輪場が満車になっている状況はないの

- 整備担当課長 で、図書館が出来て図書館用に駐輪場があれば利用者は使ってもらえると思うし、溢れた時にクロスガーデンの駐輪場を使う方もいるかと思うがうまく吸収できるのではないかと思う。
- 会長 地理的に車が停められなければ、遠い人は自転車が一番多いと思う。お母さんたちが電動アシスト自転車できたりして、電動アシスト自転車は結構、大きくて重い。
- 委員 ちょっと返却だけとか、ちょっとだから駐輪場に入れないで付近に置いていってしまう人が出たりしないのかなと思う。そういうスペースがなければいいが。
- 会長 経験的にそういうことはあると思う。
- 中央図書館整備担当課長 レンガ坂や公園の沿路はちょっと斜度があり、平坦な場所は駐輪場くらいしかないので、駐輪場以外には停めづらいのではと思っている。そういう方が出てくる可能性はあると思ってはいる。うまく対処していきたいと思う。
- 図書館長 先ほどの外部評価も含め、ご意見があれば、8月4日（木）までにメールをいただきたい。
- 中央図書館整備担当課長 素案に関してのご意見は、市民説明会やパブリックコメントと合わせて、まとめさせていただく。
- 図書館長 先ほど貸室使用料と駐輪場使用料は整理中となっているが、パブリックコメントの際は、入れたかたちで出そうと思っている。今日のバージョンとは少し変わってしまう事をご了承いただきたい。
- 会長 部屋の表示についても場合によっては、名称を変更することもあるかもしれない。
- 会長 10月には協議会で協議する場があるということである。もし、何か気が付いたことがあれば、8月4日（木）までに図書館にご連絡いただきたい。
- 会長 では、すべての議事は終了した。  
本日の第2回定例会は終了する。